

環境衛生課からの お知らせ



吉備庁舎 環境衛生課
清水行政局 建設環境室
52・2111
52・2111
ごみ分別すれば資源

川を大切に！ きれいにしまじよう

毎年、夏前になりますと、町内の川で「魚が死んで浮いている。」等の通報を受けます。夏場の猛暑で水温が高くなり、酸欠が原因になることもありますが、やはり多くは、農薬散布の方法や残農薬をそのまま川に流してしまうなどの不適切な廃棄処分によるものと推測されます。

また、農薬以外にも、事業所（工場や飲食店）からの廃油などが流出する事故も数件あります。

魚が死ぬと付近一帯に異臭を放ち大変迷惑であり、それ以上に自然体系を崩す大変大きな問題です。

川への放流は絶対にしないでください。

ハエや蚊などの 害虫発生予防について

これからハエや蚊などの害虫が発生する季節になります。町内でも地域によってはハエの大量発生が起

こつています。ハエの主な発生源は畜舎、有機肥料、腐敗した果物・野菜、ゴミ集積場などがありますので管理には特に注意をお願いします。

生ごみ減量モニター ご事業結果報告

家庭ごみの約半分を占める生ごみの減量を推進するため、コンポストの置けない住宅の方々にバイオ式生ごみ処理機を無償で貸し出し、減量効果を検証する事業を実施しました。

■モニター対象者
当初23名↓最終20名
■モニター期間
6ヶ月間
(平成24年9月1日から
平成25年2月28日まで)

今回の家庭用生ごみ処理機「自然にカエル」は、電気式ごみ処理機よりはるかに安価で、バイオチップ材も使用後有機肥料に出来たり、チップ材として再利用できる等の利点があり、コンポストの置けない住宅の方々に有効な手立てになるのではな

いかと思いいモニターングを実施しました。

結果は下表1・1、1・2のとおり、モニターング開始当初は順調に処理が出来ていましたが、時間が経つにつれて処理割合が大きく低下しました。

これは当初の予想以上にバイオチップ材の管理維持が難しかったことが原因と考えられます。

家庭から出る生ごみの大部分は野菜くずのため、徹底した水切りが難しく、チップ材がべたついてダマ状態になりバクテリアの働きが著しく低下、それにより虫や悪臭の発生、攪拌するハンドルが重くなる等の問題が出てきました。またモニターの方々からも「手間がかかり過ぎる」との意見が多く寄せられました。

環境衛生課では今回のモニターング事業の結果を踏まえて今後も生ごみ減量に向けて積極的な取り組みを行っていききたいと思えます。

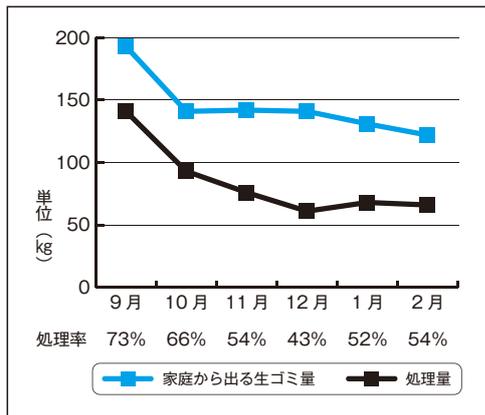
最後になりましたが、今回モニターング事業に参加して下さいましたモニターの皆様方本当に協力ありがとうございました。

*モニターの方々のご意見等はホームページに掲載していますのでご覧ください。

生ごみ減量実績データ (表 1-1)

実施月	家庭から出た生ごみ量(kg)	処理機に投入した量(kg)	処理割合(%)
9月	193	141	73.0
10月	141	93	65.9
11月	142	76	53.5
12月	141	61	43.2
1月	131	68	51.9
2月	122	66	54.0
合計	870	505	58.0

生ごみ減量実績データ (表 1-2)



家庭用ごみ処理機
「自然にカエル」